



## 「ハマの店から SDGs 促進！」

### ハマ魅せプロジェクト（横浜リユースびんプロジェクト）

#### 事業目的

横浜市資源リサイクル事業協同組合（以下リ組）では横浜リユースびんプロジェクト（以下プロジェクト）を2016年度に発足。以来、横浜市内の飲食店へ当組合オリジナルリユースびんを用いた地産地消飲料を販売。同時に大学などの出前講座や、市民向けの啓発バスツアー、環境配慮行動の意識醸成と情報発信の為シンポジウムの開催など様々な活動を展開してきた。当プロジェクトを促進するにあたりメリットは以下のように考えている。

- かつて文化として栄えていたリユースびん（回収して洗浄し、また中身を充填、破損するまで繰り返し使用できるびん）は生活の中で主に発生するワンウェイびん（一度の使い切りを前提としたびん。回収後色選別、破碎処理をして新たに作るびんの原料となる）よりもCO<sub>2</sub>の排出量が少なく、それを横浜という限定的な地域で循環させることにより更にその効果を高められる。（例：ワンウェイびん1000本とリユースびん1000本を20回ずつ使用した場合、リユースびんのCO<sub>2</sub>排出量はワンウェイびんと比べて23%程度）リユースびんを普及させることにより、リユースの文化を醸成し横浜に根付かせていきたい。
- 地産地消の野菜や果物を使用することにより、生産者の応援、地域活性化、更に現在販売を行っている商品は本来廃棄されていた果物を使用しており、食品廃棄削減、生産者負担軽減、そして新たな価値創出となっている。
- ・Zero Carbon Yokohama、SDGsなど環境配慮型消費行動への気軽な参加が可能。
- ・リユースびんを含め、誰もが環境に配慮した消費を行うようになるまちを創造する一助となる。当プロジェクトは産官民学のパートナーシップなくしては持続可能となりえない。企業・行政からの発信、横浜の強みとも言える市民力と意識の高さや柔軟性を活かした展開、言い換えれば、市民個々から発信していくという意識の中、横浜というまちが一丸となり取り組めば、環境負荷の低減、地域経済活性化など様々な課題解決に繋がっていくものと考えている。今後もこうした市民のライフスタイルに変化をもたらすことを目的として、冒頭のようなメリットを生むべく活動を推進していく。

#### 事業計画

##### 【SDGs推進店舗（仮）制度】

- 地産地消やサステナビリティな活動を行っている、または商品を扱っているSDGsに関心の高い店舗を、SDGs推進店舗（仮）として認定登録をする。
- 横浜市の取り組みである「食べきり協力店」のステッカーのようなわかりやすいシンボルマークを掲示する。そうすることで、市内販売店舗、飲食店舗へのSDGs意識啓発の醸成を図るとともに、SDGsに興味のある市民へのアピールにも繋がり、新たな層の集客が見込めるという効果をもたらす。
- 店内にSDGs推進店舗について、活動内容等の説明の掲示等も進め、より多くの啓発機会の創出を図る。
- 【今後の展開案】市民のSDGs的消費行動を促進するため、SDGs推進店舗で購入・飲食した市民（消費者）が、SDGs推進を実行したこととなる証を表現できるものを、今後構築していく。例えば、SDGs推進店舗アプリを製作して配布し、ある程度のポイントなりステージになるとSDGs推進店舗で地産地消関連の一品がサービスになるなどの取り組みを行いSDGs的消費行動の促進を目指す。

##### 【体制】

- SDGsデザインセンターと共同で事業を統括し、創出準備委員会（仮）の設置。
- 店舗評価の基準の検討。
- SDGsデザインセンターから情報発信、共同で各店舗への交渉にあたる。
- 現在リ組で既存の販売網へのアプローチ、参加促進を図る。
- 崎陽軒、横浜スタジアムなどシンボリックな店舗への交渉。

#### 問合先

横浜市資源リサイクル事業協同組合

理事長 宗村 隆寛

〒221-0054 神奈川県横浜市神奈川区山内町13

TEL: 045-444-2531 (担当: 横浜市資源リサイクル事業協同組合企画室 加藤 舞香)

FAX: 045-444-2532 E-mail: kato@recycledesign.or.jp